

● 設立披露パーティー

林芳正自民党参議院議員の祝辞

ご紹介を賜りました林芳正でございます。

有馬先生の素晴らしいご挨拶を聞いておりました、私も元気が湧いてきた者の一人でございます、まさに自信を持ってやっという自信の糧（かて）の一つが、この日本 MOT 振興協会の今日の設立であろうと思っています。

金融機関の方も今日は出席していらっしゃいますから、今、金融の危機だということでありませうけれど、有馬先生の挨拶にありましたように、「失われた十年」というのは、私は、例えば「麦踏み」のようなもので、色々と麦を踏んだら、その後にもっと強い麦が出てきた。去年の秋から冬にかけて、株が世界で同時安の時に、日本の通貨だけは高くなりました。このことが、何よりも世界の人がそういうふうに見ての証左ではなかったかと思っております、自分のことを余り悪く言い過ぎないようにしていくことがまず大事だろうと思います。そういう中でこういう産、学、官、皆様が結集されまして、MOT、まさに持てる知的資産、科学技術を活用して、マネジメントをやっという、素晴らし試みであろうと思っております、設立発起人の末尾に名前を連ねさせて頂いたわけでございます。

もとよりこのプロジェクトは今日に至るまで、司会の児玉先生、また日経におられた橋田さんが、本当に二人三脚でここまで引っ張ってこられたわけでございます、その間、紆余曲折があつて、今日に漕ぎつけられた。お二人をはじめ、今日ここにご参集頂きました皆様に本当に厚くお礼申し上げます。

私は90年代の初頭に米国ハーバード大学のケネディスクールで、今日は同窓の藤末健三参議院議員もお見えでございますが、丁度、児玉先生が教鞭をとっておられる時からの知遇を得た者の一人でございます。そういう中で私事になりますが、うちの妻も来ておりますけれど、児玉先生のもとで私が大臣になる前に博士号を取らせて頂きました。科学や産業の技術に関連した政策を私もやっっており、ピアレビューを入れたりとか、評価基準を作った

りいうところから始めまして、先の国会では、自民、民主、公明で藤末さんにも一緒になって作って頂きまして、議員立法で「研究力強化法」というものを作らせて頂いたところでございます。

まさに、こういう今、経済が大変な時だからこそ、少し中期的に自信を持って腰を据えて、MOT を中心とした科学・産業技術の一層の振興に注力をしていくことが、このピンチをチャンスに変える大きな一つの原動力になっていくと思っておりますので、私自身はまるっきり文科系人間でございますけれど、一緒になってこの MOT 振興に努めて参りたいと申し上げまして、簡単ですが、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

おめでとうございます。